

平成29年度 第3回総合教育会議議事概要

日 時：平成30年3月6日（火） 午後4時00分 ～ 午後5時15分

場 所：名張市役所2階 庁議室

出席者：名張市長 亀井利克

名張市教育委員会 教育長 上島和久、委員 福田みゆき、委員 瀧永善樹、
委員 川原尚子、委員 辻愛

《事務局》

総括監 岩崎壽久、総合企画政策室 室長 山下光彦、総合企画係長 梶本哲生、
教育次長 高嶋正広、教育総務室 室長 内匠勝也、参事 森永美紀子、
教育総務係長 福本耕平、学校教育室 室長 中森早苗、参事 福島良和、
参事 福島由夏、教育センター 地域学校協働本部チーフコーディネーター
谷戸実

○市長あいさつ

本年度、第3回目の総合教育会議の開催になります。お忙しい中、ご出席いただきました教育委員の皆様方に御礼申し上げますとともに、日頃より名張市教育施策の推進のために、ご高配、ご尽瘁いただき、重ねて御礼を申し上げます。

昨年12月23日に松尾委員が任期満了でご退任され、辻愛委員にご就任いただきました。辻委員につきましては、大変お忙しいかと存じますけれども、名張市の教育の充実、発展のためにどうかご指導賜りますようによろしく願いいたします。

この数年、議会の方では教育に関する質問が非常に多くなってきました。それだけ市民の皆さんが教育に関心をお持ちの方が多くなってきたということであるのかなと思います。

名張市の人口のピークは平成12年で、それ以降、微減していますが、世帯数だけは増え続けています。その訳は、若い世帯の夫婦が増えており、そのパターンは、二つあります。一つはご結婚され、親御さんと世帯分離してお住まいされる方々と、もう一つは市外県外から名張市にご転入いただいた方々であります。そういう方々は、名張市で子育て、教育をとり、その期待にお応えできるような、そんな子育て、教育の充実を図っていかねばならないと思っています。引き続き、ご指導、ご支援そしてご協力をたまわりますように何卒よろしくお願い申し上げます。

今日、ご審議賜ります議題は2項目あります。いずれも、これからの名張市の教育を占う非常に重要な取組になりますので、どうか忌憚のないご意見をおっしゃっていただければと思います。どうかよろしくお願い申し上げます。

（事務局）

議事に入ります前に、新たに教育委員会委員にご就任されました辻委員様より所信を含め、ご挨拶をいただきたいと思っております。

○辻委員あいさつ

教育現場は、昔に比べかなり難しくなっていると思います。そんな中、保護者という立場で何かお役に立てればと思っています。皆様のご指導を受けながら、誠心誠意頑張ってまいりたいと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

(事務局)

それでは、「名張市総合教育会議運営要領」第3条第1項に基づきまして、市長に議事進行をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

1. コミュニティ・スクール、小中一貫教育の取組状況について

(事務局より説明)

(市長)

説明は以上でございますけれども、まずコミュニティ・スクールについてご意見、ご質問がございましたらどうぞおっしゃって下さい。

(教育長)

第二次名張市子ども教育ビジョンの中でも、コミュニティ・スクールは重要施策の一つに挙げています。ゆめづくり協働事業の中で、各まちづくり組織にコミュニティ・スクールの推進に向けて特化した財源を充てていただいたおかげで、いろいろなところに視察に行っていたり、会議を地域で始めていただいたりして地域に大変大きな力を与えていただいたと思います。やはり子ども達、学校を元気にするため、学校の先生を支援していくという形の中では、学校、保護者、地域が一体となって、このコミュニティ・スクールを早く各学校で立ち上げていただきたいなと思っています。

(教育委員)

名張市のまちづくり協議会は本当にしっかり活動していただいているので、コミュニティ・スクールは絶対に名張の中で成功していくと確信しています。今までから市長さんが提言しているまちづくり、小さな公をやっていく中で、コミュニティ・スクールを活かしながら、子ども達を育てていくことを大変うれしく思っています。

(市長)

市役所の甲斐性がなかったもので、こんな熟度の高いまちが出来てきました。今までのように補助金をやってあれこれという行政のやり方はもうできない。補助金が切れたら、元の木阿弥になります。今では、住民自治の熟度を高めた土台があり、その後いろんな事業展開がかなえられるまちになってきました。これは住民の力で市役所はサポートに徹していると

ということです。地域では、今まで以上に子どもを大切にしてくれており、「地域で育てやなあかん」という雰囲気が醸し出されてきています。子どもの行事もたくさんやってくれるようになったのもすごく結構なことです。

(教育委員)

コミュニティ・スクールについて、地域のまちづくりを通じて、地域の人たちの話を聞いてくれるというような土壌が出来てきており、非常にありがたいなと思います。

(市長)

こういう課題があるというのはいないですか。

(教育長)

まだまだ、コミュニティ・スクールに対しての本当の認識が浸透していない。学校運営協議会は、学校の運営に参加するのではなく参画することです。責任を持ってやってもらうためにも、子どもの状況を共有し、本音の話ができるような関係づくりができないとこれは成功しないし、長続きもしないと思いますので、引き続き、意識改革をやっていかないといけない。最初から枠にはめるのはできませんので、まずは各学校や地域で出来ることからやっていき、本来の目的をきちっと研修していくことが必要になります。

(市長)

それが重要、最初から大きなことを求めるのはいけない。それぞれの地域で情報交換が始まり、「あれいいな」とか、「あんなことうちでできるな」となれば、それなりの相乗効果が出てくる。初めからあれもこれもしないといけないと思うとえらくなってくる。だんだんと出来ることから始めて、バージョンアップして行ってもらえばいい。

(教育委員)

29年度のコミュニティ・スクールの導入事業を拝見し、丁寧な取組、対象者を分けての講演会や研修会の開催、体制の整備等、非常に綿密な計画に沿って進めてこられて、成果が出ているのではないかと高く評価しています。地域の人同士が信頼できるまちづくりというのがゆめづくり協働事業そのものになるのだらうと思いますし、地元の方がお互い信頼のある中で進めていかないと、この取組は何も進まないと思います。30年度も引き続き、次のコミュニティ・スクールを立ち上げていくため、学校の保護者や地域住民の方がお互い話し合う場のセッティングを行政の方でうまく設定して行ってほしいと思います。

(教育委員)

自分の大学生の長男が小学生だった頃に比べると、今は子どもを対象とした地域の週末行事がすごく充実しているなと感じています。やはり、学校と地域の結びつきがうまくいけば、コミュニティ・スクールもうまくいくと思いますので、その辺をうまく進めて行ってほしいなと思っています。

(市長)

地域で温度差はあると思いますが、教職員の方の協力はこういった感じですか。

(教育長)

教職員の中にも温度差はありますが、最近は大分変わってきました。当初は、「また教育長がトップダウンでこんなものを持ち込んできた」といった感じでしたが、会議の回数を重ねるごとに「これは最終的には自分達の働き方改革に繋がるのではないか」という意識が変わってきています。熟議というのは大事なものであり、あせることなく着実に進めて行くのが大事なかなと思います。

(市長)

事務局にあっては、引き続きこれを進めて行ってください。続いて、小中一貫教育の推進について、先程の説明の中で何かご意見やご質問はありませんか。

(教育委員)

この小中一貫教育に臨むに当たり、やはり教職員の皆さんはやらなければならないことが増えるという意識を持たれることが多かったのかと思います。教職員の働く時間の縮減等の働き方改革を進めていく中、道徳教育、英語の指導、学習要領の改訂等をいかに精査しながら、小中一貫教育のすばらしさを押し出して進めていくことは、なかなか難しいことだと思います。未来を担う子どもたちを育てていくためにも、もう少し予算をつぎ込んでいただいでいかないと学校教育は進んでいかないのかなと思います。

(市長)

26年、27年は耐震、今は空調、それから学校給食と名張市の計画では、予算のほとんどを教育に使っています。ただ、今おっしゃっていただいたソフトの部分も非常に重要です。地方創生やモデル事業の提案を文科省だけでなく、内閣府にもその話を持っていきながら、具体のことを聞かせてもらい、次の予算に反映できるようにやっていきます。

(教育委員)

この前、京都で小中一貫教育全国サミットに行かせていただきました。発表されたところはどこも、「最初はいろんな問題があったが、導入後は不登校や暴力事件が減り、学力調査でも成績が上がり、やって良かった」というものばかりでした。共通の目標、カリキュラムの組み方等を全部合わせてやっているの、会議の回数も減らしたといった実践報告もありました。やり方によっては働き方改革も併せてやっていける非常に有意義な取組だということを感じました。本市の取組は全国の最先端で全国に沿った形で出来ていると思いますが、心配なのは先生方が同じベクトルを向いてやっていけるか、先生方の考え方を統一していかなければなりません。それが出来れば、大分楽になるのかなと思います。

(市長)

それぞれ意識がいろいろな訳ですから、成功事例をできるだけ作り、「これをやっていけばいい」となればいい。そのためにも、初めに実施してもらう学校や地域には頑張ってもらわなければならない。

(教育委員)

他市の事例でも、導入当初の小中一貫を進める学校の先生方はかなり疲弊してしまうという話を聞いています。それでも、子どもの姿を見たら、なんとか頑張れるのではないかとと思いますが、小中一貫を進めていくには、先生方で会議をするだけでなく、時には親睦会的なものをしながら、小学校と中学校の先生同士が顔の見える人間関係を作れるような取組も大事だと思います。

(市長)

小中学校の先生がお互いに顔の見える関係になるというのは、非常に大事なことだと思います。

(教育長)

29年度の定期人事異動で、つつじが丘小学校の6年生の担任を南中学校に一人上げて、逆に南中学から小学校に一人異動させました。福井市では、かなり前からこういった小中間の人事交流をしてきており、本市でもやってみると、南中学校の新入生徒の問題行動や親からのクレームが1件もありませんでした。すばらしいことで、小学校のことを分かっている先生が中学校の職員室に居てくれて、すぐ聞ける。これも働き方改革の一つであり、無駄な時間を使わなくて良くなったのは功を奏したと思っています。ただ、問題は免許証を持っていないと異動をさせられないということで、兼務発令をかける等をして、なんとかこれをクリアしながら、また先生方にも認識してもらいながらやっていかなければならないと思っています。

(教育委員)

先日、小中一貫教育の研修会の中で、小学校での英語教育の導入において、非常に効果を上げている事例を聞かせていただきました。名張市でも小学校での教科担任等、様々な取組が始まっていますが、英語教育については、英語の専任の教員も少なく、ALTの人数も限られている中で、果たして、国際社会に開かれた人間を育てるような教育が出来るのかというのが甚だ疑問です。国の方向性に沿って進めて行くことは非常に重要なことですが、名張独自で何かを打ち出してやっていかないことには何も始まらないと思います。一つのアイデアですが、ツーリズムの一環として、短期のワーキングホリデーで来られた海外の若い方を呼び込んで、そういった方々の力を生かしながら、学校でネイティブスピーカーとしての

国際交流をすれば、小中学校の英語教育に反映させていくことはできるような感じがします。既に名張市では国際交流の実践もたくさん積んでおられる訳で、それをもう一步踏み出していけば先生方の働き方改革にも適合した形でやっていけるのではないかと思います。これからは、学校で出来ることと出来ないことをはっきりと言っていくそういう時期に来ており、「学校は土日の電話を受け付けない」とか、「夜7時以降電話をしてきても学校には誰もいない」とか、何かを抜本的に改めていかなければ、教員の負担は減らないと思います。

(市長)

貴重なご意見をいただきました。学校の先生は生徒との交わりや指導に専念できる環境を作っていくべきですが、今は雑務が多い。このようなことは、医療の世界でもあり、カルテ等の打ち込みを専門に行う助手をドクタークラークとして3人ほどつけました。学校の先生もそういう方が必要になってくるのではないのかと思いますので、これはちょっと大きなテーマです。

先程おっしゃっていただいた国際交流の関係については、本物の外国語を話せる人を市内で探せば、たくさんいらっしゃるかと思いますし、そういったことをまた研究していただければ良いと思います。

(教育長)

今、他の自治体の大きな学校には、事務員さんを補助する市単の業務補助員がいます。その方が印刷やってくれることで、先生方が休むことが出来たり、時間外の解消に繋がっています。是非とも増員のための予算づけをしていただけたらありがたいです。

(市長)

プレッシャーをかけられましたが、これは重要なことです。

(教育委員)

小中一貫を実践していく中で、その成果が出て、素晴らしい教育が広まれば、名張はすごく教育に熱心で、とても良いまちだということで、市外から転居してくれんじゃないかと思います。まだまだ名張市は先生が少ないと感じており、そうなると予算に繋がることなので難しいのかもしれませんが、教育という重要なことなのでよろしくお願いします。

(教育長)

先日、文科省から総合教育会議に関しての聞き取りに来られた際、名張市でやろうとしている5歳児を含めたピカ1学級や5-5制等の取組は、国の文科省においても注目に値するものであるとおっしゃっていました。コミュニティ・スクールと小中一貫教育を一体としてやっていき、そのことがどう繋がって、何を目指していくのかをはっきりしながら、組み立ててやっていくことにより、評価をいただき、成果も出てくる。そのことで、地方創生なり、名張のさらなる人口増へつなげていくことは大事なことです。教福連携にしても、一つ

の部署だけでなく、みんなで力を合わせてやっていかなければ、うまく回していくことはできないと思います。

（市長）

小中一貫、コミュニティ・スクールについてはこの程度に留めます。事務局については、先程のご意見を十分踏まえて進めて行ってください。

2. ふるさと学習「なばり学」について

（事務局より説明・映像教材の視聴）

（市長）

担当者の方から何か一言ありましたらお願いします。

（事務局）

この資料集をどう使っていくかが今度の課題になっています。授業プランも作らせていただいているのですが、映像教材も使いながら、どの学校でも名張市で育った子どもがこの資料を使ってやっていけたらと思っています。それと並行して、学校だけで教えきれない部分がありますので、地域の造詣の深い方を人材バンク的に登録させていただき、学校の要請に応じて派遣させていただくことも考えております。

（市長）

自分のふるさとに誇りを持つきっかけになる取組ですね。

（教育長）

この教材を作るのに1年半ぐらいをかけて、関係の皆さんにご苦勞をかけました。今は、国の予算を使って、子どもには無料で配布しますが、できれば大人のために有料で販売することも今後検討して、活用できたらなと思っています。

（教育委員）

今後、この資料を基に名張検定のようなものをして、しっかり勉強してもらった人に学校へ講演に来てもらう等、そういった循環も良いと思います。

また、観光関連にも使っていけるのではないかなと思いますので、これをますます発展させていくような形で行政の方でもバックアップしていただけたらと思います。

（市長）

役所の人というのは、こういう冊子作っただけで、仕上がりと思ってしまう。これはアウトプットでアウトカムまできっちりやれるような体制を作っていけないといけないと思

ます。これだけが成果ではなく、これをどう活用していこうかということをも十分検討していただきたい。

3. その他

(市長)

その他について何かありますか。

(事務局)

はい。本年度、総合教育会議は、本日を含め、年3回開催させていただきました。事務局の案といたしましては、来年度も、年3回程度、開催したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(市長)

他によろしいですか。それでは、これで第3回総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。